

# 執筆要綱

## 1. 原稿の構成

### I 研究に関する報告

原著・短報は以下の書式に従って原稿を作成すること。

(表紙)	タイトル	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 短く、研究の内容を適切に表しているもの</li><li>・ キーワードが入っているもの</li></ul>
	投稿者氏名	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 全員の氏名</li></ul>
	所属機関	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 全員の所属機関及び部署名、研究室名（右上付き文字（*1*2）等を用い、投稿者名と対応させる）までを記載する。</li></ul>
	原稿等の枚数	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 原稿本文、図、写真、表、図の説明</li></ul>
	原稿の区分	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 総説・原著・短報のいずれか</li></ul>
	キーワード	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 本文を適切に表しているもの</li><li>・ 3～5個</li></ul>
本文	I 緒言	<ul style="list-style-type: none"><li>・ テーマの重要性：背景や先行研究を含めて、この論文で扱っているテーマがいかに重要かを示す。</li><li>・ 独創性：先行研究などを引用して、これまでの研究において検討されていない、新しい視点であるなどの独創性を示す。</li><li>・ 目的：重要性、独創性を踏まえて、今回の研究の仮説や何を明らかにするものかを記述する。</li><li>・ 背景と目的：先行研究と今回の研究仮説との関連を簡潔に示す。</li></ul>
	II 方法（対象者と実践方法）	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 全体の計画：研究デザイン（観察研究、介入している研究かなど）と全体の測定スケジュール等、研究の全体像を簡易に示す。研究の倫理的配慮についても記載する。</li><li>・ 対象者：対象者の選定方法や特性を示す。予め群分けをしているのであれば、どのような基準で分けたかを示す。</li><li>・ 測定・調査方法：今回測定（調査）した項目の方法を示す。介入研究であれば、介入内容を記載する。必要に応じて文献を引用する。</li><li>・ 統計処理：どのデータを使用したのか、使用した統計処理方法、統計処理ソフトについて記述する。</li><li>・ *食物摂取頻度調査法等、調査票を用いる場合は、その妥当性を示した論文を引用する。</li><li>・ *新たに開発した調査票の場合は、その妥当性を示すか、調査項目の選択基準などについて記載する。</li><li>・ 対象者の選定方法や特性、データ収集及び解析の方法、倫理的配慮について記述する。</li><li>・ 統計処理について使用した統計処理方法、統計処理ソフトについて明記する。</li></ul>
	III 結果	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 図、表を用いてわかりやすく示す。解析結果の書き方については、本【執筆要領】「5. 統計解析」を参照すること。</li></ul>
	IV 考察	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 本研究結果の何が独創的であったか、研究の長所は何かを示す。</li><li>・ 先行研究の結果と比較して、一致するのか、違うのはどのような点かを示す。</li><li>・ 今回の結果の整合性を、メカニズムなどを検討した先行研究や類似の研究との比較により示す。</li><li>・ 研究の限界点（バイアス、測定項目の信頼性や再現性の限界、一般化できる結果かどうか等）を示す。</li><li>・ 研究を踏まえた提言、今後の課題等</li><li>・ *結果の繰り返しにならないように注意する。</li><li>・ *論理的に矛盾や飛躍がないようにまとめる。</li></ul>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・先行研究との関連、研究の制限事項を含め、論理的に矛盾や飛躍がないようにまとめる。他の事例と比べて、この事例はどうであったか。</li> <li>・今後の課題</li> </ul>
V 結論		<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究から導き出された重要点を簡潔にまとめる。実践上の意義を含む。</li> </ul>
文献		「4. 文献のリスト」に従い、引用順に示す
謝辞		本報告の実施にあたり、共著者とはならないが多大な協力を得た人、企業・団体等からの費用・物品の提供・支援などがあれば、その旨を記述する
図表	図・表・写真	<ul style="list-style-type: none"> <li>・原稿1頁に1枚ずつ作成する。図は、原則としてそのまま掲載することが可能な明瞭なものとする。</li> <li>・図及び表の表題については、図と写真では下部、表では上部に掲載する。</li> <li>・表においては、縦罫線は使わない。</li> <li>・図、表、写真には、[図1] [表1] [写真1] 等の通し番号をつけ、本文の欄外に、それぞれの挿入位置を指定する。</li> <li>・補足的な説明事項を脚注におく際には、次の記号を順番に用いる。 *, †, ‡, §, //, ¶, *, *, ††, ‡‡</li> </ul>
和文抄録		<ul style="list-style-type: none"> <li>・目的、方法、結果、結論に分けて600字以内にまとめる</li> </ul>
英文抄録等	Title	<ul style="list-style-type: none"> <li>・和文の題名の内容と一致したもの</li> </ul>
	Authors	<ul style="list-style-type: none"> <li>・投稿者全員の氏名</li> </ul>
	Affiliations	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全員の所属機関名（右上付き文字（*1, *2）等を用い、投稿者名と対応させる。</li> </ul>
	Abstract	<ul style="list-style-type: none"> <li>・[Background or Aim] [Methods] [Results] [Conclusion] に分けて、250 words以内にまとめる。</li> <li>・和文抄録の内容と一致していること。</li> </ul>
	Key words	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3～5個。日本語キーワードと一致したもの</li> </ul>

\*なお、英文抄録は、2回目以降の修正の過程において、編集委員会より指示があった時点で提出とし、初回の投稿時には作成しなくてよい。

## II 実践報告

実際の栄養指導・サポート報告について以下の書式に従って原稿を作成すること。

(表紙)	タイトル	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 短く、事例報告の内容を適切に表しているもの</li> <li>・ キーワードが入っているもの</li> </ul>
	投稿者氏名 所属機関	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全員の氏名</li> <li>・ 全員の所属機関及び部署名、研究室名（右上付き文字（**）等を用い、投稿者名と対応させる）までを記載する。</li> </ul>
	原稿等の枚数	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 原稿本文、図、写真、表、図の説明</li> </ul>
	原稿の区分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実際の栄養指導・サポート報告など</li> </ul>
	キーワード	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本文を適切に表しているもの</li> <li>・ 3～5個</li> </ul>
本文	I 緒言 栄養マネジメントの目的、目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 対象チーム全体の説明：種目、著者とチームの関わり、チームのこれまでの経緯</li> <li>・ 今回、報告するに当たっての背景・課題：チームの現在の目標・課題（長期目標等）</li> <li>・ 今回の事例報告をするにあたっての課題、目標等：なぜ、栄養サポートを行う必要があったか（中期・短期目標等）</li> <li>・ この報告をする意義：他の事例報告との比較、独特の工夫がある、効果的であった、特徴的な事例、失敗事例であるが対応等が他の人の参考になる</li> <li>・ この事例の目的と正当性；○○なので、この報告では△△について報告する。</li> </ul>
	II 対象と実践内容 (=方法) スクリーニング 栄養アセスメント サポート計画 実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 対象者：今回の栄養サポートの対象となる対象者の選択方法とその選択方法を選んだ理由（スクリーニング）</li> <li>・ 測定・調査項目：この栄養サポートの目標設定や評価のために使用した測定や調査の項目とその方法（アセスメントの項目と方法）</li> <li>・ 介入内容：摂取量の目標をどのように設定したか（栄養補給）、栄養教育の方法、回数、使用した教材等（栄養教育）、それぞれの介入を担当した人（スタッフとの連携）</li> <li>・ 倫理的配慮</li> <li>* 必要に応じて文献を引用する。</li> </ul>
	III 結果 モニタリング 個人の結果・評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実際の対象者の人数と特性</li> <li>・ 介入前の状態</li> <li>・ 介入内容の実施状況：実施した回数、提供した食事の内容、教材の使用の頻度（企画・経過に関する評価）</li> <li>・ 介入後の状態（モニタリング・再アセスメント結果） <ul style="list-style-type: none"> <li>短期目標に対する結果（チーム・個人・環境）</li> <li>中期目標に対する結果（チーム・個人・環境）</li> <li>中期目標に対する結果（チーム・個人・環境）</li> </ul> </li> <li>* 必要に応じて、図表を使用する。</li> </ul>
	IV 考察 評価 栄養サポート全体の評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 予定した介入内容は実施できたか、できなかったか。実施できた、実施できなかった理由はなぜか（企画・経過評価に関する考察）。</li> <li>・ 期待した変化が得られたか、得られなかったか。その理由。（個人の評価、集団の評価＝短期・中期・長期評価に関する考察）</li> <li>・ 今回の栄養サポートは、その効果を得るために、どのような点で有効であったか。不適切であったか（総合評価）。</li> <li>・ どのようにフィードバックするか。</li> <li>・ 他の事例と比べて、この事例はどうであったか。</li> <li>・ 今後の課題</li> <li>* 必要に応じて文献を引用する。</li> </ul>

V 結論	<ul style="list-style-type: none"> <li>・簡潔なまとめ</li> <li>・今後の栄養サポートや研究に対する提言</li> </ul>
謝辞	本報告の実施にあたり、共著者とはならないが多大な協力を得た人、企業・団体等からの費用・物品の提供・支援などがあれば、その旨を記述する
文献	「4. 文献のリスト」に従い、引用順に示す
図・表・写真	図表は、必要なものに限って作成する。原稿1頁に1枚ずつ作成する。図は、原則としてそのまま掲載することが可能な明瞭なものとする。図、表、写真には、[図1] [表1] [写真1]等の通し番号をつけ、図と写真では下部に、表では上部に表題とともに記載する。表においては縦罫線は使わない。
和文抄録	・目的、方法、結果、結論に分けて600字以内にまとめる

### Ⅲ その他

総説、活動報告、資料は、研究に関する報告や事例報告の書式に準じて作成するが、必ずしも本文のすべての章を作成する必要はない。スポーツ栄養に関する指針などの資料、海外の動向等は、本文の書式を省略し、簡潔にまとめること。

#### 2. 原稿の作成フォーマット

- ① パーソナルコンピュータを用い、本文はA4判白色用紙を縦置きとして、横書きで作成する。なお、提出ファイルは、Windowsの汎用ソフトウェアで扱うことのできるものとし、本文はMS-Word、表や図のファイルはMS-ExcelまたはPowerPointの使用を推奨する。
- ② 1頁あたり40字×25行とし、余白を上下各30mm、左右各20mmに設定する。
- ③ フォントは、和文原稿では明朝体10.5pt、英文原稿及び英文抄録はTimes New Roman 12ptとする。
- ④ 表紙から文献までには、通し頁（原稿下部の中央）及び行番号（全頁での通し番号）をすべての行につける。
- ⑤ 数字には算用数字を用い、数字や英字は半角とする。
- ⑥ 図、表、写真には、[図1] [表1] [写真1] 等の通し番号をつけ、本文の欄外に、それぞれの挿入位置を指定する。英文で標記をする場合は [Figure 1]、[Table 1] とし、[Fig.1] などと省略はしない。
- ⑦ ファイル名は、初回は“投稿者氏名.doc”、“投稿者氏名.xls”等とし、査読の経過途中では、“25\_1\_2投稿者氏名.doc”とする（注：受付番号「25-1」の第2審用の原稿の場合）。

#### 3. 原稿作成上の注意

- ① 文章はひらがな、新かなづかいとし、漢字は原則として常用漢字とする。
- ② 栄養学用語は、日本栄養・食糧学会編「栄養・食糧学用語辞典」、医学用語は日本医学会医学用語管理委員会編「医学用語辞典」等に準ずる。
- ③ 実験に用いる物質については、商品名を用いず、必ず化学物質名を用いる。
- ④ 数量は算用数字を用い、桁数の多い数は3桁ごとにカンマで区切る。ただし、ページ数、通算番号（文献、特許等）の数字にはカンマを入れない。主な単位は次のように表す。km, m, cm, mm, nm, kg, g, mg, µg, µl, ml, kcalとする。
- ⑤ 論文中、繰り返し使われる語句については、略語を用いてかまわないが、初出の時には省略しない。
- ⑥ 図や表を引用・転載した場合には、投稿前に著作権者の承諾を得て、引用文献番号に加えて、図や表の下に出典を明示する。
- ⑦ 外国語名称はカタカナを用いることを原則とするが、固有名詞や原語の表記が広く使われ、理解しやすい場合には、原語を使用する。
- ⑧ 本文中の年は西暦で記載する。文献に関しては「4. 文献のリスト①～④」の項を参照のこと。
- ⑨ 本文中に、章・節・項等を設ける場合は、以下の符号を使用する。  
I. II. III. 1. 2. 3. 1) 2) 3) (1) (2) (3)
- ⑩ 文献は論文に直接関係のあるものにとどめ、引用順とし本文の最後一括して記載する。本文中の引用文献番号は右肩付とする。連続する2つの文献を引用する場合、半角カンマと半角スペースで文献番号を区切る（例、1, 2）。連続しない3つ以上の文献を引用する場合、半角カンマと半角スペースで文献番号を区切る（例、1, 3, 5, 7, 9）。連続する3つ以上の文献を引用する場合、最初の文献番号と最後の文献番号を「～」でつなぐ（例、2～5）。また、本文中に著者名で引用する場合、著者が2人以下の場合には姓を記し（例：木戸・恩田1）、3人以上の場合には最初の著者の姓を記し「ら」をつける（例：プロチャスカら1）。文献は、一般に検索可能な公刊文献に限り、入手困難、検索不可能な文献は避ける（文献として引用できないものの例：社内資料、未発表論文、公刊されない学位論文、カタログ等）。
- ⑪ 統計解析に関する表記方法等については、「5. 統計解析」の項を参照のこと。

#### 4. 文献のリスト

引用文献の記載は、下記のようにIndex Medicusに従い、欧文雑誌名は略記し、イタリック表記とする。和文雑誌名は略記しない。

- ①【雑誌】 著者名(和文はフルネームで、欧文は姓のみをフルスペル、その他はイニシャルのみで、3名まで記し、それ以上の場合は、「他」「et. al.」を用いて略記する)：論文標題，雑誌名，巻数，初頁-終頁(発行年)  
(和) 金田美美，菅野幸子，佐野文美，他：我が国の子どもにおける「やせ」の現状：系統的レビュー，栄養学雑誌，62，347-353(2005)  
(洋) Rosell, M.S., Hellenius, M.L.B., de Faire, U.H., et al.: Associations between diet and the metabolic syndrome vary with the validity of dietary intake data, *Am. J. Clin. Nutr.*, 78, 84-90(2003)
- ②【単行本(報告書も含む)】 著者名：論文標題，書名，(編者)，pp.初頁-終頁(発行年)，出版社，所在地  
(和) 健康・栄養情報研究会編：厚生労働省平成16年国民健康・栄養調査報告，p.90(2006) 第一出版，東京—vi—  
(洋) WHO: The World Health Report 2002: Reducing Risks, Promoting Healthy Life(2002) WHO, Geneva
- ③【翻訳本】 著者名：原著名/訳者名，書名，pp.初頁-終頁(発行年) 出版社，所在地  
Willet, W.: *Nutritional Epidemiology*, 2nd ed./田中平三監訳，食事調査のすべて—栄養疫学—(第2版)，pp.93-97(2007) 第一出版，東京
- ④【インターネット上の文献】 著者名\*：表題名\*，URL，(アクセス日\*)  
文部科学省，厚生労働省：疫学研究に関する倫理指針，<http://www.mhlw.go.jp/general/seido/kousei/i-kenkyu/ekigaku/sankousiryoyokaisei.html>(2008年12月20日) 注\*：明らかな場合。

#### 5. 統計解析

##### 1) 統計解析に関する留意点

確認事項(ほとんどの場合の原則であるが、例外もあり得る)

- ①正規分布及び非正規分布のデータが区別され、それぞれに適切な要約統計量の記載、推定・検定方法を用いる。  
例1) 正規分布：平均と標準偏差、非正規分布：中央値と四分位範囲(25%、75%点)で示す。  
例2) 正規分布：パラメトリックな方法、非正規分布：ノンパラメトリックな方法を用いる。
- ②対応のあるデータの分析では、対応のあるデータのための分析方法を用いる。  
例) 対応のあるt検定、Wilcoxon符号付き順位和検定、McNemar検定、条件付きロジスティック回帰
- ③割合(%)を示す時は、分母となる総人数が分かるように記述する。  
%を対比させる際、差である場合には「ポイント」または「パーセントポイント」と表す。
- ④検定の有意水準を示し、両側検定か片側検定かを明記する。注) ほとんどの場合は両側検定である。
- ⑤p値は原則としてそのままの値を示す。0.01以上の場合には有効数字を2桁(例：0.21、0.054)、0.01未満の場合には有効数字を1桁(例：0.009)、0.001未満の場合には<0.001と記載する。注) 図表の簡略化のために記号等で有意性を表すこともある。
- ⑥分析結果の数値は、必要十分な桁数で示す。注) 目安として、平均値・標準偏差・標準誤差の小数部は、元のデータより1桁多く、割合(%)では整数または小数第1位まで、オッズ比・相対危険は小数第2位まで。
- ⑦回帰係数、オッズ比等は、点推定値だけでなく、標準誤差や95%信頼区間またはp値も示す。

##### 2) 論文における記載方法：

- ・使用した全ての統計学的手法について本文中の「方法」で詳細に説明し、表の脚注や図の説明に検定法・統計モデルの名称等を簡潔に記述する。
- ・市販のコンピューターソフトを用いて処理した場合は、使用したソフトウェア名(バージョン、開発元)を本文中に記載する(例：SPSS 16.0 J for Windows (SPSS社))。
- ・測定精度以上の桁数の表示や、栄養学的に意味のない桁数の表示がないように留意する。